



理想を追求し続けた

無我苑開祖・伊藤証信

伊藤証信は、1876年、三重県の桑名に生まれ、真宗大学（現大谷大学）で西方寺の住職でもあった宗教哲学者・清沢満之などから教えを受けていた27歳のときに、父親の看病のため桑名の久米村に帰った折、その枕辺で突然靈感に打たれ、無我愛の自覚を得て、翌1905年の3月に東京巣鴨の大日堂に「無我苑」を開き、修養運動を始めると同時に、機関誌「無我の愛」を創刊。

しかし翌年3月、証信は「修行未熟」を理由に突然無我苑を閉鎖。その後、女学校の先生などを経たあと、1921年、45歳で東京中野に「無我苑」を再開。この年の8月、3日間にわたり、理想主義者であり文化勲章を受章した武者小路実篤が主宰していた宮崎県日向の「新しき村」に滞在。

1923年に発生した関東大震災

後、1925年、48歳のとき、妻とともに碧南の西端に移り住み、無我愛の思想を学問的に体系づけようと、仏教に限らずキリスト教、西洋哲学など幅広い読書、研究、思索を続けるとともに、地元農村青年に力ントの『純粹理性批判』を翻訳・教授したり、精神主義に基づく思想的影響を与えました。この間に著書『哲学入門』『無我愛の哲学』を発刊。

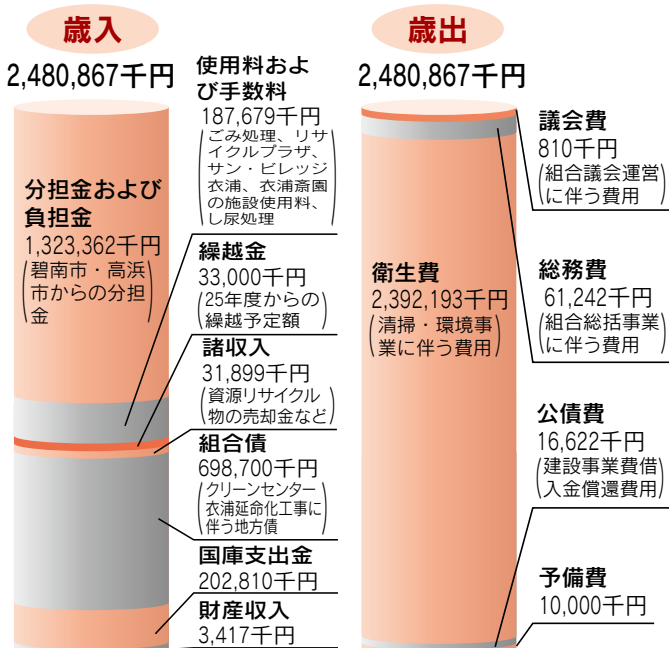
その後、1934年、58歳のときに全国からの浄財の寄贈により、木造2階建の「無我苑」が竣工し、居室と集会もできる研修道場となりました。現在の「碧南市哲学たいけん村無我苑」はこの「無我苑」があった場所に、遺族からの寄贈を受けて市が1992年に再建したものです。証信は、宗教統一運動「万教協和聯盟」運動に奔走したり、戦中は、満州に渡り無我愛を伝導し、戦争協力、天皇制賛美の言動を行い、晩年はノーベル物理学賞学者アインシュタインらの提唱する「世界連邦建設」を目指して活動。1963年满87歳で、理想を追求し続けた人生を閉じています。

なお、碧南市哲学たいけん村無我苑には、武者小路実篤が伊藤証信に贈った「無我愛」という自筆の色紙が残されています。伊藤証信や梅原猛の常設展示もありますので、改めて「無我苑」に来て、哲学してみてはいかがでしょうか。

平成26年度

衣浦衛生組合一般会計予算

衣浦衛生組合は、碧南市と高浜市で構成されています。主な事業と予算の概要をお知らせします。



【主な事業】

●し尿処理（衛生センター）

・各家庭から収集された、生し尿、浄化槽汚泥の処理

●ごみ処理（クリーンセンター衣浦）

・各家庭から収集された、可燃ごみ、粗大・不燃ごみの処理
・事業系のうち、一般廃棄物（ごみ）の処理

●ごみ再生処理（リサイクルプラザ）

・まだ再利用できると判断された粗大ごみの展示・販売（入札）
・家庭にある不用品で、まだ使える物の出品・展示・販売

●温水プールと浴場の運営（サン・ビレッジ衣浦）

・クリーンセンター衣浦のごみ焼却余熱を利用した温水プール、風呂施設の運営

●火葬場の運営（衣浦斎園）

・待合・斎場棟にて規格葬儀の利用可

問合せ 衣浦衛生組合 ☎(41)3479